

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

金　　言

仏陀は何處に在ますのであらおかそれは遠くはない、自分の身が仏陀である。
眞智の体は何處にあるのであらおか、それは自分の心であつて、甚だ近い所にある

(性靈集ヒ)

眞智は遠いところにあるものではない、自分の心中にあつて極めて近い。　仏法は自身の外にあるものではない、この肉体を外にして求むべきところはない

(秘　鍵)

四国第九番靈場　法　輪　寺

徳島県板野郡
土成町土成田中

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

諸 行 無 常

世間ではこの言葉を「世は無情なり」と、何だか悪い意味にのみとっている向
きが多いが、無常と無情は大違いである。

一般には、この語に初めて接するのが、彼の有名な「平家物語」の冒頭において
あるところから、このような誤解が生じたのかも知れない。

「諸行」とは、宇宙の全ての物の意であり、「無常」とは常態というものはな
く、いつも刻々と変化するということであって、この世の中は、全ての物がいつ
も流転・生滅して、絶えず変化するという意味である。

だから、この語の意味を本当に理解するならば、それは「悟りの道」への大き
なスタートを切ったことになる。そこで、この新しい眼をもって世の中を見れば、
確かに今までとは違った物の見方や考え方方が起つてくる筈である。そして、自ら
のあるべき道もまた豁然と開けてくるに違いないのである。

四国霊場第十番 切幡寺

徳島県阿波郡
市場町切幡

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

おばあさんの宝物

北海道のある町の駐在所に一人のおばあさんがかけこんできた。列車の中に置き忘れた手さげ袋、駅で聞いても見つからないので探してほしいといふ。「私は二十数年前から四国八十八ヶ所を順拝したいと心に願い、こつこつと小遣いをためて、やっと今年その願いがかなつた。手さげ袋の中には、その足でおまいりした寺々の御納経帖が入っています。他人様には一銭の価値もないかも知れませんが、私にとっては何物にも代えがたい宝物なのです。」と真剣な顔で訴えました。駐在さんは心を動かされ、すぐにその列車や乗客と四方八方に当つてみたがわからない。駐在の奥さんにひらめくものがあった。「もしや列車にのる前のバスに置き忘れたのでは」むだと思いつながらもバスの営業所にくくと、あつた。「ああ、よかつた」と合掌して涙を流すおばあさん。ほんとうに心温まる話です。

十一番 藤井寺住職

福留淨宗

四国霊場第十一番 藤井寺

徳島県麻植郡
鳴島町飯尾

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

昔、この山に毒蛇が住んでいて、村里へ出でては、人や農作物に火を吐いて害を与えていた。弘法大師が開山のために登られる時、これを障げようと満山を火の海としたが、大師が印を結び、真言を誦して登り賜うと、不思議にも火は順次衰え、九合目の岩窟によつて、山の主の毒蛇が激しく抵抗したが、虚空蔵菩薩と三面大黒天の加護によつて、遂に毒蛇を岩窟に封じこめてしまつたといわれる。

全山火の海となつたため、焼山の寺と呼び、山号を「摩盧山」とした。摩盧とは、梵語で水輪すなわち水を意味している。

四国霊場第十二番 焼山寺

徳島県名西郡
神山町下分

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

▲弘法大師千百五十年御遠忌記念▼

万人の心に湧き出る法の道

四国巡拝のお遍路さんの数は、年間、約二十万人といわれる。一億人を超える日本の人口、その中で、お大師様と御縁のある人は、わずか一パーセントにも満たないことになる。

カラオケは、一億総歌手をつくり、テレビ番組では、一億総タレントといわれる軽薄な時代、こんな時代に、一パーセントに満たない、選ばれたお遍路さん、何と貴重な存在であろうか。

四国路を旅する人々は、いつしか、自分自身の心が豊かになっていることに気付き、この喜びの想いを、それぞれが持ち帰る筈である。ごく自然に手が合わせられるようになつた、しつとりとした気持ちを、人知れず、胸の奥へ大事にして。

これこそ、万人の心に感應する、四国靈場の極秘、いや極意であろう。

四国靈場第十三番 大日寺 德島県德島市
一宮町西町376
<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

お大師さまと弥勒菩薩

ご巡拝ようこそお大師さま御入定千百五十年に巡り合えた事を共に喜びたいと思います

当山の御本尊は靈場中唯一仏の弥勒菩薩です。お大師さま四国御巡錫の折当地で真言の秘法を修され菩薩の妙法を感得ご本尊となされました。

またお大師さま御入定の砌、「吾眼を閉じなば都卒天に往生し弥勒慈尊の御前に待べり五十六億余の後慈尊に隨い吾が旧跡を尋ねん」と御遺告なされて居ります。

五十六億余氣の遠くなる未来と思いますが、お大師さまは勿論お弥勒さまも、「只今胸の中にいや現身として影となり形となつて御守護下さっている」信じますね。どうぞお大師さまにお合いになるよう至心に祈りお巡り下さい。

四国霊場第十四番 常樂寺

徳島県徳島市
國府町延命

<四国八十八ヶ所霊場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

当山は行基菩薩の開基と伝えられる。第四十五代聖武天皇は天下の泰平をねがい、あいつぐ凶作と疫病のまんえんを防ぐため、勅命を発して諸国に国分僧寺と尼寺の造営を命じられた。当寺は、法養山金色院国分寺と号して阿波の国分寺として行基菩薩によつて開基し、釈迦如来の尊像と大般若経を納め。本堂には光明皇后の御位牌厨子（一尺七寸）を奉祀したといわれ、天正の兵火にかかつて、焼失するまでは、二キロ四方という広大な寺域に、金堂を中心にして七重の塔が建ち、規模の宏大建築の巧妙さは一世をおどろかせたと伝えられている。

奈良の昔を僅にしのばせるものは、焼け跡から掘り出された心礎や蓮花文様の布目瓦があるにすぎない。本堂を閉む廃園の石組みは豪快な桃山時代の作だという片鱗を見せている。

四国靈場第十五番 国 分 寺

徳島県徳島市
国府町718の1

<四国八十八ヶ所靈場会発行>

弘法大師1150年御遠忌記念

人生は遍路なり

当山は第四十五代聖武天皇の勅願道場として創立せられたと伝えられる。

其の後弘仁七年弘法大師巡錫の砌、当山に滯留せられ、婆娑世界有縁の導師たる大慈大悲の千手觀音を自ら刻まれ、殊に脇士の不動明王は惡魔降伏の為め、又毘沙門天は、鎮護國家の為一刀三札の誠を尽された靈像であります。

爾來千有余年寺運の榮枯盛衰があり、加えて天正年間の兵火に焼かれたという。万治二年（一六五九）宥應法印が再建したと伝えられているが、法燈連綿として長く世人の信仰を集めている。

第十六番 光耀山 觀音寺

徳島県徳島市
国府町觀音寺

四國靈場第十六番 觀音寺

<四國八十八ヶ所靈場会発行>